

プラネタリウム学芸員スペシャル特別編

「星空 LIVE ~ プラネタリウムで星と音楽を~」実施報告

西岡 里織^{*1)}, 嘉数 次人^{*2)}

概要

2019年10月5日(土)、6日(日)に、大阪市立科学館30周年イベントの一環として、学芸員スペシャル「星空 LIVE ~ プラネタリウムで星と音楽を~」を実施した。学芸員スペシャルは、土日祝日の17時から投影しているプログラムであるが、今回は特別編として、シンガーソングライターの SETA さんを招き、プラネタリウムの星空のもと、SETA さんの歌声と学芸員による星空解説をコラボレーションさせた内容とした。また、30周年にちなみ、「思い出」をテーマに、普段の投影スタイルとは違う雰囲気のプラネタリウムを試みた。本稿では、実施にあたっての準備やプログラムの内容について報告する。

1. はじめに

2019年10月5日(土)、6日(日)に、大阪市立科学館30周年イベントの一環として、学芸員スペシャル「星空 LIVE ~ プラネタリウムで星と音楽を~」を実施した。

2019年6月より、土日祝日17時から17時45分のプラネタリウムでは、「学芸員スペシャル」と題して、各学芸員が各々テーマを決めて投影を担当している。今回の「星空 LIVE」は、この枠の中で、シンガーソングライターをゲストとして招き、プラネタリウムの星空と学芸員による星空解説、そして、生の歌声をコラボレーションさせた内容である。30周年にちなみ「思い出」をテーマとし、満天の星空のもと、観覧者各々の様々な思い出とともに星と音楽をお楽しみいただけるような、いつもと一味違うプラネタリウムを目指した。

また、音楽も楽しめることにより、今までプラネタリウムに来たことがない人にも、プラネタリウムに足を運んでもらうきっかけになると考えた。

実施概要を以下に示す。



写真1. 30周年記念イベントのチラシ

* 大阪市立科学館 学芸員

*1) s-nishioka@sci-museum.jp

*2) kazu@sci-museum.jp

2. プログラムの概要

2-1. 当日のプラネタリウム投影スケジュール

通常の土日祝日の投影スケジュールと同じ。13 時からのファミリータイム終了後を除き、入れ替え時間は15 分間である。

時間	内容
10:10~10:45	ファミリータイム
11:00~11:45	星空歴史秘話
12:00~12:45	天の川をさぐる
13:00~13:35	ファミリータイム
14:00~14:45	星空歴史秘話
15:00~15:45	天の川をさぐる
16:00~16:45	星空歴史秘話
17:00~17:45	学芸員スペシャル(星空 LIVE)

表1. プラネタリウム投影スケジュール

2-2. 「星空 LIVE」実施概要

今回の「星空 LIVE」は、時間や料金等、できる限り通常どおりのプラネタリウムの体制で実施した。

実施日 2019年10月5日(土)、6日(日)

時間 17:00~17:45

定員 300名

対象 一般(大人向け内容の旨を表記)

料金 大人 600円/高校・大学生 450円
/中学生以下 300円

出演 歌: SETA(シンガーソングライター)

星空解説: 西岡里織(科学館学芸員)

3. 当日までの準備

3-1. 実施までの経過

今回の学芸員スペシャル「星空 LIVE」は、科学館と渋谷のレーベル合同会社と共同で実施した。

日付	内容
6/28	意見交換
7/15	打ち合わせ(内容検討、音響機器の確認)
9/6	音響設定作業(音響業者)
9/9	打ち合わせ、リハーサル
10/5,6	「星空 LIVE」本番

表2. 実施までの経過

3-2. 内容と選曲

星空と音楽、そして学芸員による星空解説を合わせる上で、SETA氏と解説者とが掛け合いで話をする場面も交えて、思い出をテーマにした内容となるよう、構成を考えた。また、プラネタリウムでの場面や話の内容に合わせて以下の4曲を選曲し、JASRACに演奏利用申込書を提出した。1曲目はアカペラで、2~4曲目

はCDに録音した伴奏付きでSETA氏が歌唱した。

1. 東京の空 (小田和正)
2. 遠距離ぼっち (SETA)
3. 卒業写真 (荒井由実)
4. プラネタリウム (大塚愛)

3-3. 音響の準備

歌唱時にマイクのエコー量の調整が必要なため、プラネタリウムホールで使用するワイヤレスマイクからの入力信号に対して、備え付けの音響ミキサー上でディレイやリバーブの量を調整できるよう、設定を業者に依頼した。上記の設定は、音響ミキサーのシーンメモリに記憶させ必要な時に設定を呼び出し、終了後は元のシーンに戻すことができるものである。

4. 当日

4-1. 直前準備

前のプラネタリウム終了後、「星空 LIVE」開始までの時間は15分間である。投影が終了し観覧者の退出後、音響の調整と確認、SETA氏の声出し等を5分程度で行い、開場した。入場方法は通常通り、席も通常通りの自由席である。

4-2. プログラムの内容

はじめは、注意事項を投影後に解説者が舞台正面で挨拶し、SETA氏に入場いただいた。SETA氏の挨拶中(写真3)に解説者はコンソールへ移動し、SETA氏は挨拶後に1曲目「東京の空」をアカペラで歌唱した(写真4)。コンソールでは、歌の途中で、タイミングを合わせて大阪の街の夕暮れプログラムを開始した。歌唱終了後、SETA氏は客席の最前列で待機。観覧者と一緒に星を眺める、というスタイルである。SETA氏に関わる音響機器の調整は、コンソールにて庄司氏(渋谷のレーベル合同会社)が担当した。

1曲目「東京の空」の後は、当日20時での大阪の街中での星空、満天の星空を解説し、七夕の織姫、彦星の話(20時の空でベガとアルタイルを紹介)から2曲目「遠距離ぼっち」へつなげた。2曲目歌唱中に、星空をゆっくりと夜中の2時まで日周させ、そのまま30年前(1989年)の同じ日、同じ時間の星空に変更し(惑星のみ位置移動)、今回のテーマである「思い出」へシフトした。

夜中2時での星空解説、3曲目「卒業写真」歌唱後は、SETA氏と解説者で思い出について話をし、4曲目「プラネタリウム」へとうつた。星空は、3曲目歌唱中に夜中の2時から4時へゆっくりと日周させ、4曲目の途中で夜明けプログラムを実行した。解説者は夜明けプログラム実行後に移動し、最後は二人そろって舞

台正面で挨拶して終了した(写真6)。

今回、星空の演出は、全て普段の投影で使用しているものを使用した(流星、星座絵など)。プログラムの進行を表3に、本番の様子を写真2～写真6に示す。

時刻 (目安)	内容	プラネ演出
17:00	注意事項投影	
17:02	舞台正面で挨拶 東京の空(3分30秒)	大阪の街 日の入り
	今夜の星空解説	大阪の街 満天の星空 (20時)
17:22	遠距離ぼっち (3分15秒)	ゆっくり日周 (2時) 30年前の星空へ
17:25	星空解説 30年前の星空であることを明かして、思い出の話へ SETA氏へ投げかけ	1989年夜中 2時の星空
17:35	卒業写真(3分40秒)	ゆっくり日周 (4時)
	二人でトーク(思い出をテーマに次の曲へ)	
17:42	プラネタリウム (3分程度)	4時の満天の星空 大阪の街 夜明け
17:45	舞台正面で挨拶 終了	

表3. プログラム進行表



写真2. 開始前のホワイエ(直前準備中)



写真3. SETA氏あいさつ



写真4. 日の入の場面
(大阪の街を背景に「東京の空」を歌唱)



写真5. 終了時の客席



写真6. 終了のあいさつ

5. おわりに

今回のプログラムは、プラネタリウムの星空とともに、シンガーソングライターにその場で歌っていただいたり、解説者と歌手の掛け合いトークを交えるなど、普段の生解説プラネタリウムとはまた違ったライブ的要素を取り入れた。そしてその中で、学芸員による星空解説はプログラムに馴染む内容で行い、科学館で実施する意義からそれないことにも心掛けた。

終了後は観覧者より、「今までプラネタリウムに来た

ことがなかったけど、また来ます」「癒された」「もっと、このようなプラネタリウムをやってほしい」「涙が出た」等のお声をいただき、各々の方に今回のプラネタリウムをお楽しみいただけたようであった。ただ、今回はアンケート等を実施していないため、好意的なご意見しか聞くことができていない。

また、観覧者数としては満席とはならず、半数～3分の1程度が空席となった。これは、通常のプラネタリウム「学芸員スペシャル」として実施したため、専用のチラシを作成する等の、特別な広報をせず、また、広報期間も短かったことが要因として考えられる。当館としての広報は、大阪市立科学館30周年記念イベントのチラシや「月刊うちゅう」に、イベントの1つとして掲載する他、Twitterでお知らせするくらいであった。科学館によくご来館される方からも、「広報をしっかりとっておけば、満席になったのでは？」というご意見をいただいた。

ただ、料金、時間、チケット購入方法等、通常のプラネタリウム通りとしたため、「星空LIVE」を知らずに来館された方々を含め、気軽にご観覧いただきやすかったのではないと思われる。そのことから、プラネタリウムや星空に興味を持っていただくきっかけになったのではないかと考える。

今回、筆者にとってとても良い経験となった。この経験を活かして、今後も科学館活動に取り組んでいきたい。

6. 謝辞

今回の学芸員スペシャル「星空LIVE～プラネタリウムで星と音楽を～」を実施するにあたり、渋谷のレーベル合同会社の庄司明弘さん、シンガーソングライターのSETAさん、そして当館職員の皆さんには、多くのご協力、助言をいただき支えていただきました。ここに改めて、御礼申し上げます。